

# News Flash

ユニークな活動や他セクターとの「協働」など、先駆的な取り組みプロセスにみる多様化し、進化するNPOの最新事情をご紹介します。

## アートと社会、人をつなぐ 「アートミーツケア学会」設立

医療、福祉、コミュニティなどのケアの現場におけるアートの役割、社会でのアートの可能性について、研究者、実践者が集い、実践していく場をつくらうと、「アートミーツケア学会」が設立された。

3月11、12日に奈良市で行われた設立記念総会・フォーラムには、全国からNPO、研究者、医療、福祉関係者、学生など、約200人が集まり、麓田清一・大阪大学教授が会長に選出された。記念フォーラムでは、「アメリカ・アーツ・イン・ヘルスケア学会」元会長の講演や、実践報告、グループディスカッションが行われ、活発に意見が交換された。

同学会は、調査研究やシンポジウム、アートとケアを結ぶプロジェクトを実施し、国際的なネットワークの形成をめざす。副会長の畑祥雄・関西学院大学教授は、「多様な専門家が集う場になりたい。社会の課題にアートがどのように関わられるか。人の生きる力、創造力を開発していきたい」と語る。同学会事務局・(財)たんぼぼの家内 TEL074214317055

## アジア初の持続可能な漁業認証をめざす 京都府舞鶴市の底曳網漁が MSC認証の本審査開始

京都府舞鶴市の京都府機船底曳網漁業連合会が、ズワイガニ漁とアカガレイ漁を、環境に配慮した漁業の認証である「MSC (Marine Stewardship Council) 認証」に申請し、本審査に入った。本審査には半年から1年かかる。認証を取得すれば、アジアで初めてとなる。

同連合会は、漁獲量が減少した1970年代から、操業禁止区域・禁漁期間の設定、漁獲制限、定期的な海底清掃によって、資源保護と環境保全に取り組んだ底曳網漁を行ってきた。しかし、その努力があまり消費者に伝わっていないことから、広く一般に知ってもらいたいと考え、

MSC認証の取得を申請した。MSCは、世界的な環境保護団体「WWF」と大手食品関連企業「ユニリーバ」が設立した第三者機関で、認証審査は、MSC本体から認定を受けた機関が行う。現在、世界で15漁業が認証されている。26カ国でMSCマークのついた水産製品320品目が流通しており、欧米のスーパーでは日常的に目にする。



MSCのロゴマーク

WWFジャパンの町田佳子さんは、「世界有数の水産物の生産国であり輸入国でもある日本でMSC認証が広がれば、海洋環境の保全と海洋資源の持続可能な利用に弾みがつくのでは」と期待する。WWFジャパン TEL031376911713

## NPOがブログで地域の悩みに答える 「地域安心お助けネット」

市民の悩みの解決に、NPOの経

験を活かそうと、NPOがブログで相談対応をする「地域安心お助けネット」が開設された。

ユーザー登録をすると、誰でもNPO活動、子育て、まちづくり、介護、仕事などについて相談できる。

相談に対応するのは、NPOの中間支援、介護、青少年育成などの活動を行う17団体。「お助けネット」のシステムは、兵庫県宝塚市にある(特活)宝塚NPOセンターとNTTデータクリエイション(株)が共同プロジェクトとして考案した。

05年12月の開設から現在まで、毎週700件を超える利用者がある。

1ヵ月10件以上の相談対応から、関連事業の紹介や、相談先の仲介などにつなげているという。

「お助けネット」が新しい形で市民とNPOをつなぎ、地域の課題解決につながっていくことに期待したい。URL = <http://www.hnpo.consponet> 宝塚NPOセンター TEL079718714350

## 「言葉の壁」を超えて、 「コミュニケーションをつなぐ 母子」でないしたん？」が完成

外国人住民が増加、多様化する中、日本人住民とのコミュニケーション不足から誤解が生じ、問題につながる